

「木曽からの提言」

提言者代表：田中勝巳木曽広域連合長



本日は、お忙しい中をお集まりいただき、誠にありがとうございました。

流域に暮らす私たちは、同じ川の水を飲み、同じ川の水で生活と営みを行う中で、今日の繁栄を築きあげてきました。この同じ水で結ばれた巨大なコミュニティを日本中部流域文化圏と名付けるとすれば、この日本中部流域文化圏は人類誕生以来多くの利益を共有してきました。

一方、課題も多くあります。時代の移り変わりの中で、上流域では少子高齢化による農山村の衰退、森林荒廃などが現実的なものとなり、下流域では時として深刻な水不足に陥ったり、近い将来巨大地震が想定されたりするなど、それぞれに悩みは大きなものがあります。

本日は、「自分たちのやるべきことは何か」、或いは、「何ができるのか、何が協力しあえるのか」を考えながら、意見交換を行いました。今後も、こうした「できることをやりながら、互いに支え合う」ことが、大切なのではないのでしょうか。そこで、木曽として次の5点について、提言をさせていただきます。

1点目は、災害時における相互協力・相互支援についてです。南海トラフ巨大地震の被害が想定される地域をはじめ、多くの活断層を抱える上流地域にとっても、災害時の対応は大きな課題です。流域自治体において、まずは水、食糧、人員、避難場所等の包括的、広域的な相互応援協定を締結し、お互いに可能な支援を行うという意思表示が必要ではないでしょうか。その上で、上流域として東日本大震災で注目された岩手県住田町の木造仮設住宅のストック化について検討したいと考えております。これは、木造仮設住宅のキットをあらかじめ作ってストックしておき、災害発生後直ちに被災地に届けることができるというもので、木の持つ住みやすさ、半日程度の工期、間伐材利用による森林整備促進等優れた特徴があります。費用負担などの課題がありますが、国県や多くの自治体と協力しながら取り組んでいきたいと思っております。

また、大規模災害時に1週間の生活場所と食事を提供する鳥取県智頭町の疎開保険の仕組みも、木曽地域全体で取り組むことができれば、災害時支援、地域間交流等に大きく寄与できると考えております。これは、木曽三川の中流域、上流域それぞれに可能な施策と考えます。

2点目は、流域文化圏全体で支える森林整備、水源地保全の取り組みです。本日の事例発表にもありました愛知中部水道企業団と木曽広域による水1トン1円基金による間伐などの森林整備事業を、流域のもっと大きな枠組みで行うことができれば、過疎化、高齢化、財政難にあえぐ中山間の自治体において、森林保全事業が大きく進むほか、雇用の創出も期待できます。また、企業やNPO団体などによる森林整備ボランティアの活動も今まで以上に呼びかけ、上下流域が一体となった活動に発展させたいと願っております。

3点目は、上流域の農山村を舞台にした自然学習の取り組みです。戦国時代、木曽をはじめ多くの山の木が大量に切り出され、その結果濃尾平野に水害が起こり、命も農地も奪われました。現代でも山村が荒廃すれば都市も荒廃するということを多くの人たちに理解をしていただきたいと思います。特に次代を担う子供たちには、山林や水の大切さ、食べ物大切さ、共生することの大切さを、是非木曽をはじめとした上流域で学んでほしいと思います。犬山中学校の山村学習のような取り組みを、多くの自治体に取り組んでいただきたいと思います。考える次第です。

4点目は、企業や自治体による上流域への直接的な投資の促進です。ビジネスサミット等により上下流企業間の商談の機会や物産展の機会が設けられ、一定の成果が上がっていると聞いておりますが、さらに企業の森づくり、カーボンオフセットの仕組みづくり、上流域製品の積極的な購入などが山村の崩壊を防ぎ、環境の保全につながることを念頭に、企業の皆様方に積極的な投資をお願いしたいと思います。また、間伐材を利用した学習机やイスなどを学校で使用していただくことも森林整備の一助となりますので、是非自治体の皆様方にご検討いただき、相互の経済交流へ発展できたらと望んでいます。

5点目は、木曽などの農山村における癒しの時間と空間の提供についてです。今、都市部の企業では多くのストレスからうつ病や精神疾患を抱える社員が多いと聞きます。木曽には高原、森林、温泉、食、木曽馬など心身を癒す資源が豊富にあり、こうした環境の中で過ごすことによって、人間本来の自然治癒力と免疫力を高めることができます。また、IT環境も整備されており、大自然の中で仕事をすることも可能です。木曽地域として、今後下流域の企業や都市生活者の皆さんが抱えるニーズや問題を調査し、木曽として何ができるか、何を求められているかを把握したうえで、木曽ならではの物やサービスを提供していきたいと考えております。こうした調査にも是非ご協力をいただきたいと思います。と存じます。

もっともっとたくさんの共助の道があると思いますが、とりあえず以上の提案とさせていただきます。また具体的な事業を展開していくため、当サミットやシンポジウムのあり方、推進体制の整備等を検討していく必要がありますが、これについては今後の検討課題としたいと思います。

同じ水を飲み、使う仲間として、共存共栄していくための知恵を出し合い、努力していくことが求められています。これは、木曽川だけでなく、揖斐川でも、長良川でも同じであります。一人ひとりが、それぞれの自治体が、それぞれの企業が、それぞれの団体が、お互いのために何ができるかを考えながら、支え合うことをやっていきましょう。

お忙しい中を、遠路木曽の地に集まっていたいただいた皆様方に心から感謝しながら、木曽からの提言とさせていただきます。

平成 25 年 10 月 16 日

木曽町・上松町・南木曽町・木祖村・王滝村・大桑村・木曽広域連合